⑯さかさ竹（鉾立）

鉾立の清九郎さんといえば、日本国中に名前のきこえた、たいへん名高い妙好人（信心深い人）で、ありがたい話が、いろいろと伝えられている。

本願寺のおっぱんさん（御仏飯）をたくたきぎをせおって、京都まで死ぬまではこびつづけたというのもそのひとつだが、あるとき木津川までくると、大水がでていて川を渡ることができなかった。

ところが、清九郎さんが念仏をとなえながら川をわたろうとすると、ふしぎなことに清九郎さんの歩くところだけ水が二つにわれて道をつくり、難なく向こう岸へつくことができたということなど、だれにでも知られている話である。

ところでそのときいつも使っていた竹の杖だが、清九郎さんがなくなってからのち、それを墓の上にたてておくと、いつのまにか新芽がでて育っていった。

そのとき杖は、さかさにたてられていたので、その枝はみんな下向きにでていたということである。

今も高市郡丹生谷の因光寺というお寺の境内には、みんな下向きになった枝をしげらせているこの竹の一むらが、やぶになっているという。